

〈中学校社会部会〉

研究主題

基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る学習指導の工夫・改善

研究の概要

中学校社会の基礎的・基本的な内容を学習指導要領の内容ととらえ、その確実な習得を目指して、学習指導の工夫・改善に取り組んだ。研究主題にせまるために、平成13年度から16年度までの評価の研究や指導法の研究を踏まえ、基礎的・基本的な内容を明確にし、個に応じた指導法の工夫等について研究を行った。

I 研究の目的

社会科における基礎的・基本的な内容を明らかにし、それをすべての生徒に確実に習得させるための指導法の開発に取り組む。

II 研究の方法

- 1 社会科における「基礎的・基本的な内容」のとらえ方
- 2 確実な習得を図るための指導方法の工夫と個に応じた指導

III 研究の内容

1 社会科における「基礎的・基本的な内容」のとらえ方

中学校学習指導要領第1章総則第1は後半において「学校の教育活動を進めるにあたっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、…基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と、学校教育の基本理念を述べている。本部会では、社会科における「基礎的・基本的な内容」を、「学習指導要領の基準性の一層の明確化」（平成15年10月7日中央教育審議会答申）を踏まえ、中学校学習指導要領第2節社会第2「2 内容」に示された一つ一つの項目を指しているのとらえた。また、中学校学習指導要領解説社会編第3章1(3)に「知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため、基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するものとし、細かな事象を網羅的に羅列したり高度な事項・事柄に深入りしたりしないこと。」と示されていることに留意した。これらを踏まえ、本部会では「基礎的・基本的な内容」の構成を、図1のように考えた。

2 確実な習得を図るための指導方法の工夫と個に応じた指導

本部会では、「基礎的・基本的な内容」の確実な習得の状況を、観点別学習状況の評価の「おおむね満足できる」状況ととらえて研究を進めた。

「基礎的・基本的な内容」は知識面と能力、技能、態度面から構成されている。知識面は発問やワークシート、ペーパーテスト等の繰り返し指導を通して、また能力、技能、態度面は地図帳や資料等の読み取り、話し合い学習、調べ学習や課題学習、作業的・体験的な学習、発表学習等の多様な学習活動を計画的継続的に指導することによって習得されると考えた。

「基礎的・基本的な内容」の確実な習得には、生徒一人一人の学習状況を的確に把握することが必要となる。そのため、①適切な年間指導・評価計画の設定、②「基礎的・基本的な内容」ごとの”マトリックス”や”内容の構成”の作成、③ワークシートの開発、④生徒一人一人の習得状況の評価や記録等を考えた。具体的には、④については指導事例の中で授業中の即時的な把握として、机間指導によるノートやワークシートの記入状況や、発問に対する

3 指導事例1 地理的分野

(1) 小単元名 地域の規模に応じた調査 ―都道府県― 《山形県を例に》

(2) 小単元の目標

山形県の地理的事象を見出して追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。

(3) 単元の指導計画（8時間）

第1時 山形県の自然

第2時 山形県の農業

第3時 交通網の発達と地域の変化《本時》

第4時 山形県のまとめと確認

第5・6時 「個別化の時間」 一人一人の学習の習得状況に応じた学習

第7・8時 調べ学習の発表

〈評価規準

関心・意欲・態度…都道府県の地理的事象に対して関心が高まり、意欲的に取り組み、地域的特色をとらえようとしている。

思考・判断…都道府県の地理的事象に基づいた課題を、多面的・多角的に考察している。

技能・表現…都道府県の地理的事象をとらえるための資料を、収集・選択・活用している。

知識・理解…都道府県の地域的特色を理解するとともに、地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けている。

	学習内容		学習活動	評価規準と方法	個に応じた指導 「努力を要する」状況と判断した生徒への配慮
	基本的な事項	基本的な事柄			
第1時	山形県の自然	<ul style="list-style-type: none"> ・多雪 ・庄内平野 ・山形盆地 ・最上川 ・奥羽山脈 	山形県の自然、気候、地形の特色を地図帳・景観図等を用いてつかむ。	資料や地図帳を適切に使って地形や気候の特色を調べている。 (技能・表現/ワークシート)	一緒に地図帳を使って調べたり、該当する資料の見るポイントを指示したりする。
第2時	山形県の農業	<ul style="list-style-type: none"> ・山形盆地のさくらんぼ栽培 ・庄内平野の稲作 ・降雪と豊富な水 ・ビニルハウスと果樹園 	稲作、果樹栽培がさかんな地域を地図帳を使って調べ、その理由を考える。	自然的条件と人々の営みとのかかわりに着目し、多面的・多角的に考察している。 (思考・判断/ワークシート)	さくらんぼと稲作の栽培地域の違いについて、位置や地形、栽培方法の違いに着目するようにアドバイスする。
第3時 本時	交通網の発達 地域の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・山形自動車道 ・山形新幹線 ・庄内空港 ・工業団地 ・伝統産業 ・出稼ぎ 	観光客増加やIC工場建設が交通の発達によることを統計グラフや統計図を使って調べる。 交通網の発達が地域社会に与えた影響を統計図から考える。	地図やグラフを用いて考えさせ、地域の変化をとらえる視点や方法を考察している。 (思考・判断、技能・表現/ワークシート)	該当する2つの分布図を比較したり、統計グラフの変化した年代に着目したりするようにアドバイスをし、一緒に考える。

第4時	山形県のまとめ（自然・産業・交通） ・第1～3時に学習した基本的な事柄	地域的特色の習得状況を確認して、次の時間への準備をする。	山形県の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 （知識・理解／ペーパーテスト）	第1～3時で使用したワークシートを振り返り、まとめるようアドバイスをする。
第5・6時	<p>「個別化の時間」 巡回による個別指導 （習得状況に応じて、個々が取り組む学習の時間）</p> <p>① 「十分満足できる」状況（A）・「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒は、各自で課題を設定し取り組む。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>（A）と判断した生徒の課題例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の交通の発達と地域の変化の関係を調べる ・さくらんぼ栽培が盛んになった理由 ・出荷先はどこが多いか調べる ・専業農家と兼業農家の暮らしを比較する </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>（B）と判断した生徒の課題例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼの種類 ・山形県の果樹（洋なし・もも） ・米の種類 </div> </div> <p>② 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒は、補充的なワークシート（4校時のテストの復習、基本的な事項・事柄の定着）に取り組む。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>（C）と判断した生徒の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形盆地 ・庄内平野 ・山形自動車道 ・さくらんぼ栽培 ・稲作 ・工業団地 等 </div> <div style="width: 45%;"> <p>終了した生徒は課題学習に入る。</p> </div> </div>	<p>評価規準と方法</p> <p>地域的特色を多面的、多角的に考察している。 （思考・判断／観察、ノート、ワークシート）</p> <p>グラフや地図を活用し、地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けている。 （知識・理解／観察、生徒作品）</p>		
第7・8時	<p>「課題学習の発表会」 「個別化の時間」の学習成果の発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活班内での発表相互評価 ・学級内での発表相互評価 <p>※評価項目：作品のまとめり、発表の仕方、調べた内容など</p> <p>※ワークシートと学習作品と生徒の相互評価用紙を本項目の総括的評価を行う際の資料とする。</p>	発表に意欲的に取り組んでいる。学習成果を図表を用いて分かりやすくまとめ表現している。（関心・意欲、技能・表現／評価表）		

(4) 本時の指導（第3時）

① 本時の目標

- ・グラフや地図を活用し、観光客数や交通網の変化をとらえさせる。
- ・観光客数や交通網の変化の要因を考察させる。

② 本時の授業展開

	学習内容		学習活動	評価規準と方法	個に応じた指導 ★「努力を要する」状況と判断した生徒への配慮 ◆「十分満足できる」状況と判断した生徒への配慮
	基本的な事項	基本的な事柄 ※ゴシックは既習事項			
導入	〔前時の復習〕 〔本時の授業の目標・進め方の確認〕	・山形盆地のさくらんぼ栽培 ・庄内平野の稲作	・本時の授業の流れを把握し、見通しをもつ。		

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網の整備と発達 	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹園（観光農園） ・山形自動車道 ・山形新幹線 ・庄内空港 <p>工業団地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品工業 ・機械工業 ・電機工業 <p>（・IC工場）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客数の推移グラフから山形県の観光客数の変化を読み取る。 ・なぜ山形への観光客が増加したかを考える。 ・工業団地の増加が交通網の発達と関連していることを読み取る。 ・IC工場の位置が高速道路や飛行場新幹線の近くにあることを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計グラフや地図を適切に活用し交通網の発達と観光客の増加・IC工場の増加をとらえている。（技能・表現／ワークシート） ・交通網の発達と産業の変化の関係を考察している。（思考・判断／ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ★グラフの縦軸と横軸に着目させ、変化を読み取るようアドバイスする。 ★図から山形県を訪れる観光客の目的を発見させる。 ★過去と現在の二つの図を比べさせ、IC工場が増加している位置や地形、周囲の施設、交通網との関係に着目して、読み取るようアドバイスを行う。 ★交通が発達することによるよい点をあげさせたり、統計資料を見せたりして、一緒に変化の様子を考える。 ★資料を読ませ、出かせぎに行く人が少なくなった理由を考えさせる。 ◆山形県と同じ地域変化は他県にも見られるのか、調べさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光産業の発達 ・出稼ぎの減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の発達により地域社会がどのように変化したかを考える。 		
まとめ	（学習の確認）	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に学習した基本的な事項・事柄 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網の発達と地域の変化で整理し確認する。 ・自己評価を行う。 		

③ 本時の評価

- ・観光客数や交通網の変化の要因を考察することができたか。
- ・グラフや地図を活用し、交通網の発達と地域の変化の関連をとらえることができたか。

(5) 習得を図る具体的な手だて

本時では、グラフや地図の統計資料を活用して「他地域との結びつき」(観光)や「交通網の整備」「地域の変化」の視点から地域的特色をとらえさせる学習を行った。その際に学習内容を確実に習得できるよう次のような工夫を行った。

①基本的な事項・事柄をおさえたワークシートを活用したこと。 図1

②統計資料を読み取る視点を明確にしたこと。(図1)

③ワークシート作業中に、個別指導を行ったこと。

①、②の工夫をしたことにより地域的特色をとらえる視点や方法を意識して学習することができた。

評価の観点としては社会的な思考・判断や資料活用
の技能・表現の2観点について、正答できた生徒を「お
おむね満足できる」状況(B)とし、正答できない生
徒を「努力の要する」状況(C)とした。「おおむね
満足できる」状況(B)と判断した生徒の中で質的な
高まりが認められた場合を「十分満足できる」状況
(A)とした。

「努力の要する」状況(C)と判断した生徒につい
ては、机間指導を行い個別指導を行った。具体的には、
グラフの年代の読み取り、観光客数の変化、工場団地
の分布の変化、交通網の確認などを自力で読み
取ることが出来るよう「工業団地を示す赤い◎
印はグラフ中にいくつあるか」「グラフ中では
◎はいくつ増えているか。」「工業団地はどの
ような場所に増えているか。」(図2)等のアド
バイスを行った。

その結果、読み取る際に、年代、数、場所等
注目すべき点に分かり、当初全く読み取るこ
とができなかった生徒もできるようになった。ま
た、そのことにより、自信をもってその後の学
習に取り組む態度が見られた。

また、「十分満足できる」状況(A)と判断した生徒については、別の課題を提示した。
具体的には地図帳において他県である宮城県のIC工場の位置と交通網の関係を調べ、関
連性を考察させた。生徒は、山形県と同様の結論を導き出し、一般的共通性に気付いた。

(6) 個別化の時間について

本事例では、「基礎的・基本的な内容」の確実な習得を図るために、一斉指導で生
じる習得状況の違いを補整するものとして、次のような個に応じた指導を工夫した。

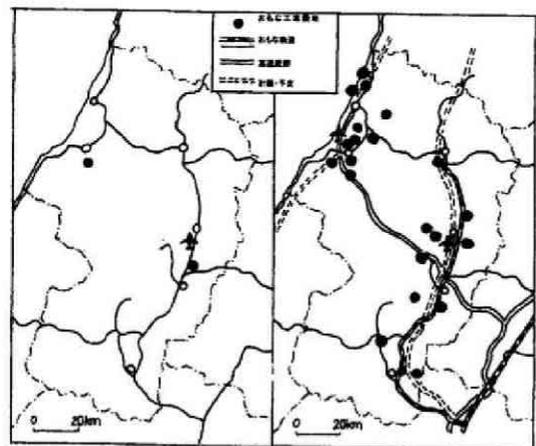
①通常の授業内で行う個別的な指導(本時の「個への配慮」はこれにあたる)

②特別に時間を設けて行う「個別化の時間」(本事例の第5、6時にあたる)

本部会では、一斉指導と①、②のような個に応じた指導とを効果的に組み合わせること
により基礎的・基本的な学習内容の確実な習得を図ることを目指した。その後、ペーパー
テストにおいて「交通網の発達によるIC工場の分布状況の変容を、他の都道府県(岩手
県)でもどの程度読み取れるか」を問うた。その結果、「努力を要する」状況(C)と判
断した生徒の8割ほどがほぼ正答することができた。このことから、授業内での「個への
配慮」や「個別化の時間」は効果的であると言える。



図2



4 指導事例 2 歴史

(1) 中単元名 戦国の動乱とヨーロッパ人の来航

(2) 中単元の目標

戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解させるとともに、その文化の伝来がわが国の社会に及ぼした影響について考えさせる。

(3) 中単元の指導計画（4時間扱い）

第1時 新航路の開拓

第2時 戦国大名の支配

第3時 ヨーロッパ人の来航と文化の伝来 《本時》

第4時 南蛮貿易と南蛮文化

<学習指導要領に基づく「基礎的・基本的な内容」マトリックス>

時	学習内容 (基本的な事項)	学習目標	学習指導要領（歴史的分野）に基づく4観点と基本的な事柄				個に応じた 指導例
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解 基本的な事柄	
単元	世界の動きと全国統一 <学習指導要領> (4) ア 戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解させるとともに、その文化の伝来がわが国の社会に及ぼした影響について考えさせる		・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に対して関心をもち、意欲的に追究している。	・戦国大名が割拠していた時代にヨーロッパ人が来航し、鉄砲やキリスト教を伝えたことで、わが国の社会に及ぼした影響を考察している。	・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航、近世社会の形成に関する絵画や文献など多様な資料を活用し、考察した結果をワークシート等に適切に表現することがしている。	・戦国の動乱と当時のヨーロッパ人の来航を、世界の歴史を背景に理解している。	★「努力を要する」状況と判断した生徒への配慮 機指導によるワークシート点検は毎時実施する。 ◆「十分満足できる」状況と判断した生徒への配慮
第1時	新航路の開拓	スペイン・ポルトガルによる新航路開拓の目的や影響を、当時の世界の状況と関連づけて考えさせる。	・ヨーロッパ人による新航路開拓の過程から、外国の文化や生活に関心が高まっている。	・新航路の開拓が世界にもたらした影響について、多面的・多角的に考察している。	・地図資料「新航路の開拓」等を活用し、ヨーロッパ人來航の背景やキーワードをワークシートにまとめている。	・新航路開拓の影響と背景を理解し、その知識を身に付けている。(宗教改革には選入りしない)コロンブス、ガマ、マゼラン、スペインポルトガル、カトリック、イエズス会、こしょう(香辛料)	★小学校や前単元で学んだ既習事項確認 ◆資料集「宗教改革」と「奴隷貿易」を提示し、新航路開拓の要因を深く追究する。
第2時	戦国大名の支配	戦国大名の領国支配の様子を、城下町や領国経営のようすから理解させる。	・身近な地域の戦国大名の業績に関心をもち、意欲的に調べ発表している。	・各地の戦国大名が、領国支配にあたって行った政策の背景について考察している。	・身近な地域の戦国大名に着目し、領国支配の過程やキーワードをワークシートにまとめている。	・戦国大名の領国支配の様子を分国法制定や城下町形成から理解し、知識を身に付けている。(戦国大名や合戦を網羅的に扱わない)守護大名、戦国大名分国法、下克上、城下町	★年表・史料の読み取り方法の確認 ◆資料集「全国各地の戦国大名」を提示し、授業中に扱った大名と比較する。
第3時	ヨーロッパ人の来航 文化の伝来 (本時) (班活動)	ヨーロッパ人の来航による文化(特に鉄砲やキリスト教)の伝来について、その世界的背景を理解させ、国内に与えた影響について考えさせる。	・鉄砲やキリスト教がヨーロッパ人によってもたらされたこと、文化の伝来が日本の社会に及ぼした影響について関心をもち、調べている。 ・意欲的に班活動に参加し自分の意見を尊重し受け止めようとする。	・鉄砲やキリスト教が、日本の社会に及ぼした影響について考察している。 ・ザビエルへの手紙の内容について仲間の意見を参考にすると、多面的・多角的に考察している。	・鉄砲やキリスト教がもたらされた位置や年代などを歴史地図中に適切に表現している。 ・教科書や資料集等から必要な資料を選択し、キーワードをワークシートにまとめている。	・ヨーロッパ人來航による鉄砲やキリスト教の伝来について、世界的背景を理解し、知識を身に付けている。 鉄砲、キリスト教、南蛮貿易、ポルトガル、ザビエル、種子島、鹿児島、キリシタン大名	★班員による相互学習 ◆教科書「イスラム世界の交易」を提示し、ヨーロッパ人の來航を多面的・多角的に考察する。
第4時	南蛮貿易と南蛮文化	南蛮文化が、日本に定着していることを具体的な事例をふまえて理解させる。	・身近な生活とかかわる文化財や外来語などに関心をもち、それらを尊重しようとする。	・桃山文化の形成の基礎となる、南蛮文化の特色について多面的・多角的に考察している。	・絵画資料「南蛮人渡来図屏風」等を活用し、文化の特色とその誕生の背景やキーワードをワークシートにまとめている。	・南蛮貿易の影響や東南アジアとの積極的な貿易が、日本の文化形成にもたらした影響を理解し、知識を身に付けている。 南蛮文化	★班員による相互学習 ◆資料集「天正遣欧少年使節」を提示し、南蛮文化に対する認識を深める。

*マトリックス中の網掛け部分は、その時間で最も重視する内容を意味する。

(4) 本時の指導

① 本時の目標

ヨーロッパ人の来航による文化（特に鉄砲とキリスト教）の伝来について理解させ、国内に与えた影響について考えさせる。

② 本時の授業展開

	学習内容		学習活動	評価規準と方法	個に応じた指導 「努力を要する」状況と判断した生徒への配慮
	基本的な事項	基本的な事柄 ※ゴシックは既習事項			
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業の目標と進め方の確認 前時までの復習と補足 	<ul style="list-style-type: none"> コロンブス、バスコ・ガマ、マゼラン、こしょう（香辛料）、キリスト教、戦国大名 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、本時の流れを把握し見通しをもつ。（全体） 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人の来航 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄砲、キリスト教、こしょう（香辛料） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を利用して、伝来した文化を調べる。（個人） 		
	<ul style="list-style-type: none"> 文化の伝来 文化の伝来の影響 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄砲、キリスト教、南蛮貿易、ポルトガル人、ザビエル、種子島、鹿児島 鉄砲、キリスト教、南蛮貿易、貿易の利益、クリンタン大名 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめた資料から日本に影響を与えた「もの」を考え選択する。（個人） 当時の戦国大名の立場になってザビエルからの布教の頼みに対する返事を書く。 ザビエルの頼みに賛成側と反対側とに分かれ、それぞれ返事を考える。（班） それぞれの立場で相手を説得するよう考えを出し合う。（班） 賛成側と反対側のそれぞれの意見を踏まえて自分の考えをまとめる。（個人） 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの「もの」の移動の中から文化の伝来（鉄砲・キリスト教、ポルトガル人・ザビエル、種子島・鹿児島）を理解している。（知識・理解／ワークシート） 話し合い学習を通して、日本の社会に与えた影響を戦国大名の立場でとらえている。（思考・判断／話し合い学習、ワークシート） 仲間の考えや教師のアドバイスを聞くことにより、自分なりの意見を持ち、考えを深めている。（思考・判断／話し合い学習、ワークシート、観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ★第1～2時のワークシートを振り返らせ、「日本にとって衝撃的だった「もの」、今後の日本を大きく変える「もの」、小学校での既習事項である等のヒントを与える。 ★以前のワークシートを振り返るよう働きかけたり、「戦国大名なら何を期待するか」（鉄砲、貿易の利益等）等の問いかけを行ったりするなど、関連する事柄をヒントとしてアドバイスする。 ★話し合いが進んでいる班の意見をいくつか提示する。 ★もう一度これまでの授業の流れを説明する。 ★いくつかの考えを複数提示し、その中から選ばせるなど一緒に考える。 ★仲間の考えをどう思うかについて考えさせ、その上で自分はどう思うのかを考えさせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りと自己評価 次時の予告 		<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く。（全体） 自己評価を記入する。（個人） 		

(5) 習得を図る具体的な手だて

「基礎的・基本的内容」を観点ごとに整理したマトリックスを作成し、振り返りや繰り返し、話し合いによる生徒相互の働きかけを重視した学習活動の工夫を行った。

A 「基本的な事項・事柄」を明確にし、ワークシートを活用して、振り返ることや繰り返すことによる習得。

① 見直すことにより、基本的な事項・事柄を再確認し、定着を図る。

一単位時間の中で同じ基本的な事項・事柄に何度も注目させ、見直しをさせたりした。また、基本的な事柄・事柄をワークシートに記入する際、色ペンを用いるなど丁寧に指導を行った。その結果、理解が深まり、知識の定着を図ることができた。

(生徒の感想)

- ・先生に説明をしてもらいながらワークシートにまとめることで、忘れてしまったことはすぐに前のワークシートを見直して確かめられたので、頭に入って覚えやすかった。
- ・理解できるように、頑張って何度もワークを見直した。

(ワークシート)

② 新航路開拓の日本への影響を考える！

③ 新航路開拓によって来航したヨーロッパ人が日本にもたらしたモノ(物)は何か？ 特に日本にとって「重要な」だったと思うモノを、②の中から2つ選んでみよう！

※以外の色ペン

もたらしたモノ	だれが？	いつ？	どこへ？(物産品の流通経路)
香辛料	ポルトガル人	1543年	
キリスト教	ガビエル	1549年	

④ ③の他にも日本にはヨーロッパ人によってさまざまなモノが広がりました。その真意を伺おう！

＝ **開港** ＞ 貿易

*これは天竺のモノです。覚えておこう！

② 繰り返すこと・積み重ねることにより知識が定着し、さらに関連付けることで認識が深まる。

単元を通して、基本的な事項・事柄を繰り返す・積み重ねることで、確実な知識の定着を図った。以前使用した自らのワークシート(ポートフォリオ)を振り返る場面を意図的に設定した。授業後の感想において、その記述の中に基本的な事項・事柄が随所に見られた。また、他の基本的な事項・事柄と関連付けて考えるなど事実認識から関連認識へと理解を深める生徒が見られた。

- ・大切な言葉が何回も出てきたので覚えることができた。例えば鉄砲はポルトガル人が伝えた→戦国大名も欲しがり戦いに使う人も…。こんな感じで覚えられてよかった。
- ・これがこうなったから、次はこう。そして次は…と全部つながっていく。ここがこうだから次はこうなんじゃないかな？と予想を立てるのも、結構上手になった。

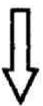
B 話し合いによる互いの働きかけを重視することによる、生徒の思考の深化。

ア：布教の頼みを受け入れる立場と受け入れない立場に分かれ、それぞれの立場で話し合い考える。



- ・最初はどうでもいいと思っていたけれど、みんなの意見を聞いているうちに、どんどん興味がわいてきて、いろんな意見を出したり、それを書いたりすることができた。

イ：ディベート的な要素を取り入れ、それぞれの立場で意見を交換する。



- ・話し合いなどをしていく時に時代の流れがだんだん見えてきたし、その時代に何が起こったのかがわかる。相手の意見に納得したり、自分たちの意見も「これでいいのかな」とか「あっそうか」と思ったりできる。当時の人の気持ちも考えることができた。

ウ：話し合いを踏まえて、個人の考えをまとめる。(思考が広まり深まった例)

- ・立場が変化した例：キリスト教は広められません。今のままで満足だからです。キリスト教が入ってくると、大名という自分の地位がなくなってしまうからです。→キリスト教を広めてもいいけれど、かわりに強い武器をください。それでよければ広めてあげます。私は天下を取りたいと思っています。

